

○堀口逸子<sup>1</sup>、清水隆司<sup>2</sup>、中村譲治<sup>3</sup>、筒井昭仁<sup>4</sup>

(1:順天堂大学医学部公衆衛生学, 2:産業医科大学産生研精神保健学

3:NPO 法人 WELL-BEING, 4:福岡歯科大学予防歯科学)

【目的】MIDORI理論 (PRECEED-PROCEDE model) に基づいた職域における口腔保健に関する学習プログラムを作成し、平成9年より福岡県下の中規模の某製造業企業で実施してきた。学習プログラムの内容やプログラムの評価は、日本健康教育学会 (1997年と1999年) で発表してきたが、今回は、職域における口腔保健に関する健康学習教室が、口腔の健康管理を通して、身体面 (特に肥満度、BMI) に与える長期的影響を調査したのでその結果を報告する。

【方法】96年10月より、MIDORI理論に基づいた口腔保健に関する健康教室を、対象企業で実施してきた。受講者は、本人の希望と、ベースライン調査結果、年齢、勤務部署等を考慮して決定した。教室開催のスケジュールと各教室の目的・概要を図1に示した。プログラムの運営は、対象企業の保健婦1名が調整役として参画し、健康学習教室の主催者であるNPO法人WELL-BEINGからは歯科医もしくは歯科衛生士の計2～3名が出向いて教育を行った。

健康学習教室の基本的考え方としては、受講者の発言を進行の材料とする相互学習とした。また、「教える」ではなく、「気づいてもらう」ことを主眼として実施した。

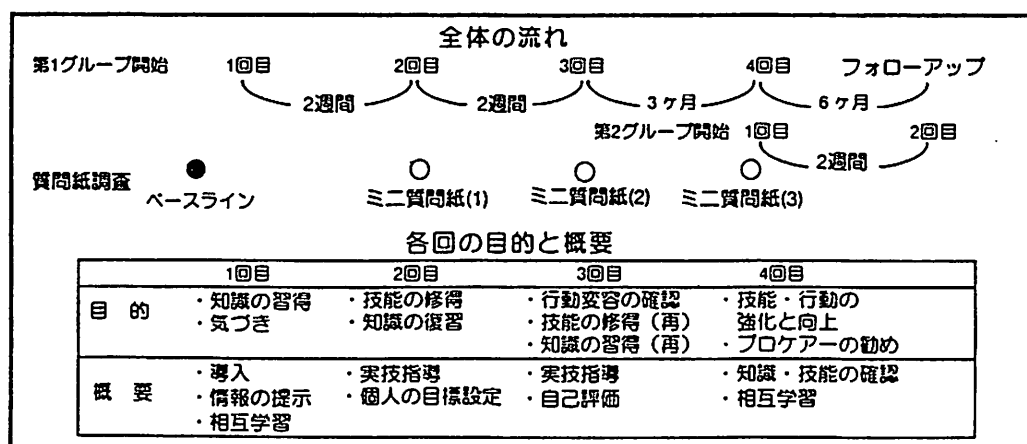


図1 健康学習プログラムのスケジュールと各内容

調査対象者は、1996年から2001年まで対象企業に在籍し、かつ、1996年と2001年に投薬治療を受けていない男性従業員273名とした。その中で、1996年10月から2001年3月までに歯の健康学習教室を受講した者は110名であった。毎年5月に社員全員が受けている職域健康診断のデータを使用し、1996年と2001年の肥満度 (BMI)、収縮期血圧 (S-BP)、拡張期血圧 (D-BP) を指標として調査した。歯の健康学習教室が身体面に与える影響は、 $\Delta = (2001年のデータ) - (1996年のデータ)$  を計算し、受講者群と未受講者群の $\Delta$ BMI、 $\Delta$ S-BP、 $\Delta$ D-BPをt検定で比較した。統計解析は、SPSS10.0Jを使用した。

【結果】1996年度の年齢・BMI・S-BP・D-BPを、受講者群と未受講者群間で、t検定で比較したところ、年齢は有意差が認められなかったが、BMI・S-BP・D-BPは共に未受講群のほうが受講群に比べて有意に高いことが認められた。

歯の健康学習教室前後の変化では、 $\Delta$ BMIは受講者群の方が未受講者群よりも有意に低いことが認められたが、 $\Delta$ S-BPと $\Delta$ D-BPでは有意な変化が認められなかった(表1)。

【考察】1999年の本学会において、歯の健康学習教室の受講者において、「出血」「歯ぐきの腫れ」「歯がぐらぐらする」「かみにくい」という自覚症状が受講後、有意に減少したことを既に報告した。今回、歯の健康学習教室による得られた口腔保健レベルの向上が、身体面に対してどのような影響を長期的に与えるかを検討した。

その結果、肥満度(BMI)の増加が、受講者群では未受講者群と比べて有意に低いことが認められた。この原因について不明であるが、口腔保健行動が食習慣に好ましい影響を与え、その結果として肥満度に対しても好ましい影響を与えている可能性が考えられた。

今後、口腔保健行動と肥満度の関係について、詳細に調査する予定である。

(謝辞 今回の調査にご協力いただいた企業並びに従業員の皆様に深く感謝申し上げます。)

表1: 受講者と未受講者の比較結果

	受講者	未受講者	
n	110	162	
1996年度			
年齢	35.9(8.4)	35.9(9.6)	n.s.
BMI	21.8(2.2)	22.8(2.7)	p < .01
S-BP	118.6(12.4)	122.9(14.6)	p < .05
D-BP	69.4(10.0)	72.1(11.6)	p < .05
$\Delta$ BMI	0.6(1.3)	1.1(1.4)	p < .01
$\Delta$ S-BP	3.1(13.0)	3.3(14.1)	n.s.
$\Delta$ D-BP	4.9(9.8)	3.8(11.3)	n.s.

1) t-test

#### 【参考文献】

- 堀口逸子、西方寿和、中村清徳ら．職場における口腔のヘルスプロモーション(1)－PRECEDE-PROCEDE modelを利用した質問紙の開発－．日本健康教育学会誌 5巻特別号，1997：142-143.
- 西方寿和、堀口逸子、中村清徳ら．職場における口腔のヘルスプロモーション(2)－PRECEDE-PROCEDE modelを利用した健康教育プログラムの開発－．日本健康教育学会誌 5巻特別号，1997：144-145.
- 堀口逸子、筒井昭仁、中村寿和ら．職場における口腔のヘルスプロモーション(3)－PRECEDE-PROCEDE model(MIDORI 理論)を利用した健康教育プログラムの評価－．日本健康教育学会誌 7巻特別号，1999：156-157.